

# 子どもの病気⑤

## 冬に多い感染症



**宣言**  
明るい笑顔  
すぐ返事  
伝える元気

かちどき薬品 ホームページ  
げんき君 健康に関する情報がいっぱい  
<http://www.genki1616.co.jp>

かちどき薬品グループ 

かちどき薬局のブログ  
[ameblo.jp/kachidoki-blog](http://ameblo.jp/kachidoki-blog)



Seedling 2019 10月号

## ノロウイルス

かかる頻度が最も多いウイルス性胃腸炎です。

【流行時期】 11月～3月

【主な症状】

- ・嘔き気 ・嘔吐 ・下痢
- ・嘔吐の回数は1日10回以上となる場合もある

【予防接種】 ワクチンなし

## ロタウイルス

ほぼ全ての子どもが5歳までにかかるウイルス性胃腸炎です。

【流行時期】 1月～5月

【感染しやすい年齢】

6か月～2歳を中心に、乳幼児に多い

【主な症状】

- ・発熱(38度以上)
- ・嘔吐 ・下痢(白色水様便)
- ・嘔吐の回数は1日3～6回程度



【予防接種】

- ロタウイルスワクチン(経口ワクチン):任意接種
  - ・1価ワクチン: 生後6週～24週になる前までに2回接種
  - ・5価ワクチン: 生後6週～32週になる前までに3回接種
- ※どちらを接種しても構いません

## 【合併症】

- ・嘔吐、下痢による脱水症 ・けいれん
- ・脳炎、脳症 など

ぐったりとして元気がない、口の中や舌が乾いている、嘔吐物に緑色の液体が混じる、便に血が混じるなどが見られるときはすぐに受診しましょう。

## 【治療方法】

対症療法のみで整腸剤を処方されることが多いです。

## 【家庭でのケア】

- 乳幼児用イオン飲料や経口補水液などで少量ずつゆっくりと水分を与えましょう。



- 嘔吐がある場合は無理に食べさせず、食べられる場合は、消化のよいものを少しずつ与えましょう。

- 嘔吐物や排泄物を介して感染するので、使い捨てのビニール手袋とマスクを着用して処理をしましょう。乾燥した嘔吐物からウイルスが舞い、それを吸い込んで感染することもあるので、素早く処理をしましょう。処理後は十分な手洗いとうがいが大切です。

- ノロウイルスとロタウイルスはアルコール消毒薬が効きません。消毒には、次亜塩素酸ナトリウム（家庭用塩素系漂白剤）を使用しましょう。

## 【登園・登校の目安】

嘔吐・下痢等の症状が治まり、普段の食事とれるようになってから。

# RSウイルス感染症

乳幼児の代表的な呼吸器感染症です。一度感染しても再発することが多く、2歳までにはほとんどの乳幼児がRSウイルスに感染するといわれています。1歳未満の乳児は入院となるケースが多く、生後6か月までは最も重症な症状を起こします。感染の回数が増えるほど症状は軽くなる傾向にあります。

【流行時期】 9月～3月

## 【主な症状】

- ・発熱
- ・鼻水
- ・激しい咳
- ・のどの痛み
- ・ゼーゼーという苦しそうな呼吸



## 【治療方法】

対症療法のみで、解熱剤や咳止め、痰切りの薬を処方されることがあります。

## 【予防接種】 ワクチンはなし

早産・未熟児で生まれた、先天性心疾患、免疫不全、ダウン症候群の赤ちゃんは重症化のリスクが高いため、予防注射「シナジス」を保険適用で接種することができます。  
※シナジスはワクチンではなく予防薬です



～RSウイルス感染症～

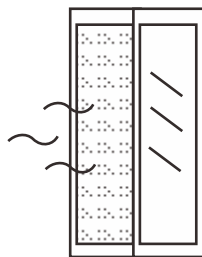
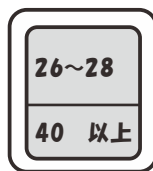
## 【合併症】

- ・肺炎
- ・気管支炎 など

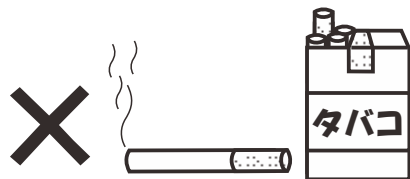
顔色や息苦しき、激しい咳など少しでもおかしいなと思ったら早めに受診しましょう。

## 【家庭でのケア】

- 安静にし、水分を十分に与えましょう。
- 室内を適度な温度(26～28度)、湿度(40%以上)に管理し、こまめに換気・掃除をして清潔を保ちましょう。



- タバコの煙は、子どもの気道を刺激するため、咳が悪化し、呼吸が苦しくなってしまいます。できる限り受動喫煙の環境を避けるようにしましょう。



## 【登園・登校の目安】

解熱し、咳の症状が安定してから。

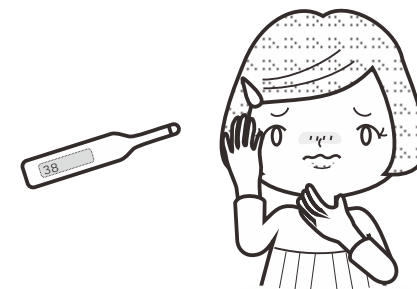
# インフルエンザ

冬に大流行する呼吸器感染症です。感染力はとても強く、人が集まる場所では感染が拡大します。

【流行時期】 12月～3月

## 【主な症状】

- ・発熱(38度以上)
- ・のどの痛み
- ・強い頭痛
- ・全身倦怠感
- ・関節痛、筋肉痛など激しい全身症状



## 【治療方法】

発症してから48時間以内に抗ウイルス薬を服用することで、1～2日早く熱を下げる効果があるといわれています。

## 【予防接種】

インフルエンザワクチン(不活化ワクチン)：任意接種

- ・接種年齢：生後6ヶ月以上
  - ・接種間隔/回数：13歳未満は原則2回
- ※流行前に2回接種が終わるようにスケジュールを立てましょう
- <目安>1回目：10月～11月  
2回目：11月中

～インフルエンザ～

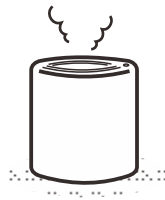
## 【合併症】

- ・中耳炎 ・熱性けいれん ・肺炎
- ・気管支炎 ・心筋炎
- ・ライ症候群  
脳の炎症や腫れ、肺機能の低下や喪失をもたらし、死に至ることもある病気
- ・インフルエンザ脳炎・脳症  
高熱が出ているときに、突然のけいれんや意識障害（昏睡状態、異常に暴れる、意味不明のことを言う など）を起こし、短期間に全身症状が悪化、死に至ることもある病気

いつもと違う症状や様子が見られる場合は必ず受診しましょう。

## 【家庭でのケア】

- 安静にして睡眠をしっかりととりましょう。
- お茶、スープ、ジュースなど本人が飲みたいもので水分を十分に与えましょう。
- 部屋を暖かくして、湿度を十分に保ちましょう。
- 飛び降りなどの異常行動を起こすこともあるため、発熱後2～3日は保護者がそばで見守りましょう。



## 【登園・登校の目安】

発症した後5日を経過し、かつ、解熱後2日(幼児は3日)を経過してから。

# 基本の予防・対策

## ●手洗い

ウイルスの侵入を防ぐために、こまめな手洗いが重要です。

- ・帰宅時、食事前、トイレやオムツ交換の後、調理前後は、石けんで30秒を目安に、指先、指の間、手首なども忘れずに洗い、流水で十分に流す。
- ・手を拭くタオルはこまめに交換するか、ペーパータオルを使用し、タオルは共有しない。

## ●マスクの着用

マスクはウイルスを含んだ飛沫の侵入や無意識に口や鼻を触るのを防ぎます。また、鼻やのどの粘膜も保湿します。感染者を看病する際もマスクを着用しましょう。



## ●身の回りのものをこまめに消毒

ウイルスは体外に出ても数時間は感染力が落ちないため、ウイルスの付いた手で触れたおもちゃやコップ、家具などを介して、感染する恐れがあります。身の回りのものは、アルコールや次亜塩素酸ナトリウムで消毒しましょう。



## ●人混みを避ける

感染症の流行状況によっては、外出の日程や内容を見直すことも大切です。